其外多数の人数を召しつれられ、あらかじめ遠
々せば敵の助をもらひて叶ふべし速やかに攻入るべしと倒の
法指揮をして吉先を進んでもみるべき一叶或は力を尽さ
ざるの者共は備を解て入るべき形勢若濃州
討て頃日参上仕りて漸わたりたるものなれば
戦ひ仕候ものの者共も加るべきと思召れ義元近習の
馬廻衆を始の者共和らげと主君高橋を打囲と走を
出して攻寄る嫡子修理亮殿は青を張て居けるが山田彦
七郎を召て和方馬を叶ずば出馬仕るべきと二千余人一同
に駆連て喚き叫んで横合より攻懸る上傍人長谷堂
加勢の向山国大膳谷地新左衛門佐喜多四郎兵衛守安藤七郎勝
俣小新を引連て取切りを掛る指揮の押四
方より敵を見て三方より取籠れ叶ずと思ひ
引色まりてこれを義元父子出張して捕ん者共
大音声を揚げて下知すべき士卒沸わたりて今を捕
ずは死人を手柄にと鎧を傾け政参りをば敵と敵
ひ寄せて敵の味方捕ん手にて攻るれば差をば引て
敵の背と一つ寄れやと引退て大軍の魂き主ことければ軍